

# ☎山形いのちの電話

広報52号

2015.11.25

yamagata

## いのちの電話をとおして 「グループ未知」をご存じですか？

特定非営利活動法人 未知(NPO法人未知)

理事長 瀬川 由美子



私は山形いのちの電話に、支援ボランティアとしてかかわらせて頂いております。

NPO法人未知は精神障がい者の就労支援、生活訓練など、就労継続支援B型事業所と地域活動支援センターを運営しております。平成元年の設立当初からかかわっており、今年から理事長を引き受けることになりました。

発足当時は、手探りでとても大変でしたが「いのちの電話」と出会うことができ、その時の体験がメンバー皆とのかかわりかたについてとても勉強になりました。「時を共に過ごしてくれる仲間がいる」そう実感できるのが「いのちの電話」であり、「グループ未知」なのです。

事業所は2ヶ所で活動しています。グループ未知事業所では農作業（無農薬）、自主作品（小物）、



加工品（梅干し・漬け物）など、もう1ヶ所のクリエイティブハウス未知事業所ではクッキー、陶器、染め物などを作り、主にバザーなどで収益を得てメンバーの工賃に充てています。

両事業所ともに力を合わせて、地域に根ざした取り組みと、さらにメンバー皆が生き生きと活動できる支援を目指していきたいと思っています。



### 山形いのちの電話 広報52号

#### 目次

◆いのちの電話をとおして	1 p
◆相談員を支えて下さっている先生の紹介	2 p
◆講座・研修会報告	4 p
◆全国研修会鹿児島大会	4 p
◆東日本広報担当者会議	5 p
◆資金ボランティアの皆様	5 p
◆インフォメーション	6 p
◆受信統計	6 p

# 相談員を支えて下さ



## 戦後70年に思うこと

理事・研修委員長 末 廣 晃 二

今年には戦後70年が経過し、国のありようだけでなく個人の中でも、自分たちが歩き続けてきた過去、今、そしてこれからに向けたさまざまな振り返りと議論が試みられています。今年最大の議論は、安全保障関連法と総括される違憲立法が強引に国会を通過したことでした。国会中継のTV映像やこれからの日本はどこに向かって行くのかと問いかける市民のデモ隊が国会議事堂を取り巻く様子に接し、中でも、SEALDs（シールズ）と称するいかにも都会的でファッショナブルな学生中心の若者組織の活動を知り、久しぶりに若いころの熱い血が沸き起こるような感慨を覚えたものです。

自己紹介のつもりでいきなりこのような話を切り出してしまいましたことをお許してください。私は昭和16年生まれで、この夏74歳を越えたところですが、私自身にとっても今年には記念すべき年を生きているような気がしています。太平洋戦争の勃発の生まれであり、戦後教育を受けて育った第一世代としてこの国とともに生きてきたのだなあと思い起こすことが多々あります。

私は、1960年日米安保条約の批准反対運動で学生たち若者が立ち上がった年に大学生として上京した田舎育ちの若者でした。血気盛んな18歳は、いきなり安保闘争の学生デモに加わり、時代を変える力になると夢中になっていました。それ以降も、私の仕事の行く先々には、平和と人間が尊重される社会がどのようにわれわれ一人一人の生活を豊かなものにするかを実感として受け止めることが多かったと思っています。

私たち60年当時の学生世代は、もう全人口の

15%以内の後期高齢者層の片隅に押しやられているのも事実ですが、まだまだ、身体が動く間は時代と繋がる仕事に拘わりたいと、いつまでも青二才的な気分が抜けないところは相変わらずで、朝の小一時間ばかりの散歩に力が入ったりしています。しかしながら、8月頃でしたか、河川敷を散歩中に歩道のセメント道に這い出してきた蔓草に足を取られて転倒するといった、他人に言えないような失態を演じるなど、体力の衰えは隠せません。そろそろ、次の世代に引き渡して「完全隠居生活」に入っても良いのかなと心の揺れ動く毎日を過ごしています。

私自身の職歴は、前半の25年ほどは学生相談カウンセラーとして、もっぱら学生と一緒に過ごしました。ここ16年間は、教育や医療・福祉の現場で働く心の専門家を養成する臨床心理学分野の大学院の学生教育に携わって来ました。私の仕事は、産業や生活の豊かさの影の部分で反映した「心の時代」の流れが生まれる中で、心を病む人々や孤立し周囲との繋がりを失い、生きる力を失いそうな人々への接し方が研究され、実践する場が生まれたことと重なります。

丁度そのような時に、山形大学で一緒にご一緒したご縁があった初代事務局長をなさった故石塚先生からのお誘いを受けて、20年前、山形いのちの電話相談活動と出会いました。相談員の養成と研修をお手伝いするということが関わらせていただいているのですが、もうこんな年齢になっていました。もうしばらく皆さんと一緒させていただこうと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

# っている先生の紹介



## いのちの電話(電話相談員)とのかかわり

研修委員 松本 朋子

新しいカレンダーをかけたのは、ついこの間だったのに……残すところあと2枚になっていて、改めてため息をついてしまいます。驚くような暑さも過ぎてしまえば話題がない時のいい材料です。

いのちの電話との最初の関わりは相談員養成2期生の継続研修の時以来ですから、約20年前となります。当時、私は婦人相談所で女性からの様々な相談を受ける仕事をしていました。それ以前は児童相談所や障がい者関係の心理判定や相談業務を担当しておりました。電話相談も業務の一つでした。

業務柄、日本各地でのいのちの電話の活動について知っていましたが、山形県でも開設されると聞き、何と大変なことをされるのだなと、思っていたのですが、相談員研修のお手伝いの話が来て、相談の現場にいる立場から何かお役に立てるならと引き受けることにしました。

相談員は相談員となってからも研修を受け続ける義務があります。その継続研修の担当の他にも研修委員もさせていただいておりましたが、6年程して家庭の事情から中断してしまいました。

いのちの電話からすっかり離れておりましたが、2年前からまたお手伝いするようになりました。随分長い間離れていたにも関わらず、当時の相談員の方々に活動を続けられている方がたくさんおられたことに心強い気持ちになりました。

いのちの電話に関わっての一番の印象は、相談員の方々の「人のために何かをしたい」というボランティア精神はもちろんですが、「学ばんとする意識の高さ」を強く感じることです。こんなにバイタリティー溢れる人達が山形にいる、それも

グループでいるのだ、というのが内心驚きでした。それは20年経た今も変わらず、相談員へ新たに応募される方々からも感じることです。私自身は相談員の方々としか接する機会がありませんが、最近ではいのちの電話を支える他の方々も同じ雰囲気を持っているのでは……と考えるようになりました。

いのちの電話は相談する方も受ける方も匿名ですので1回限りの相談となります。匿名での電話相談というとなにか頼りないもののように思えますが、それだからこそ相談する人は思うがままに話ができ、時には常識から逸脱してしまうまで話し込んでしまうこともできます。そうした電話をひたすら聞き続けるには少しばかりのエネルギーでは耐えられません。バイタリティーが必要です。

これまで相談員は、もともとバイタリティー溢れる人達が相談員となったと思っておりましたが、どうやらそうではなく、いのちの電話につながるとうると、元々持ち合わせていたバイタリティーが増幅してくるのではないかと勘繰るようになりました。いのちの電話の何がそうさせているのかはまだまだわかりませんが、いのちの電話にはそうした力がある、そう思えてなりません。

「どうぞ何でもお話してください。」という温かい声が続きますよう、研修を通じて協力していきたいと思います。



講座・研修会  
報告**新しい試みをしました!**

○7月29日(水)

**団体後援会員研修会****会社内の精神衛生について(うつ病・ストレス対策)**

講師:社会医療法人公徳会若宮病院 医長 竹内幸弘 先生

ご支援いただいている会員(団体)の皆様、感謝の気持ちをお伝えし、「精神衛生の向上」を図る一助になればと、今回初めて企画しました。精神疾患と自殺の関連や精神疾患発病の原因など、わかりやすく説明していただきました。また、「生き心地の良さ」を追求すれば自殺予防はおのずと付いてくる》自殺予防対策のヒントをつかむことができました。参加した企業の方からの質問などもあり、大変参考になった研修でした。来年もまた、継続して開催したいと考えております。



○8月8日(土)

**自殺予防のために自分たちができることを考える****いのちとこころを考えるつどい in最上**

新庄市「ゆめりあ」での開催。まず、最上保健所より県内の自殺対策の現状報告などをお話いただき、次に、自殺予防の取り組みをしている民間3団体の活動を紹介しました。

**ほっとハートまむろ川**

何気なく立ち寄れる場「コーヒーサロン陽だまり」を開催しています。啓発活動のひとつ、手作り紙芝居「聞き耳頭巾」を紹介していただきました。

**山形いのちの電話**

電話相談のハードルの高さを軽減するために「シナリオに基づいての模擬電話相談」を披露しました。悩んでいる本人だけでなく周囲の方にも電話相談を活用していただきたいとお願いしました。

**NPO法人ぼらんたす**

山形県庄内発!こころを元気にするプロジェクト。自殺に特効薬はない、自殺に蓋をしない、自殺の問題を特別なこととしないというテーマで、様々な自殺予防対策をすすめています。



それぞれの取り組みを知っていただく良い機会となりました。また、自身の「気づき」も大いにあったとのお意見もあり、今後もこのような出会いの場を企画していければと思います。

全国研修会  
鹿児島大会**暑かった鹿児島、熱かった大会**

第33回いのちの電話相談員全国研修会鹿児島大会が、10月16日から18日に鹿児島市で開催されました。その中から基調講演を取り上げて紹介します。

講師は、神田橋條治氏(精神科医、精神分析家、他)演題は「聴く、かたる、技術」でした。

「この大会のテーマは『今、ここ』とあります。今私たちは時間と空間を共にしています。私の講演は、今カメラに撮られています。それを後でみて見ると、何かかが違う。情報が違う。『今、ここ』なのです。



細部に目を向けると、全体が見えにくくなります。全体を見る練習をする。例えば、芸術を鑑賞する。音楽を聴く。絵画を鑑賞する。そこには命が接している。自分の心と体を融合させる練習をする。細部を鍛えることと、全部を命でとらえることを交互にやる。細部には全体が反映している。一つの言葉の中に全体が見える。皆が持っている癖を全体の型に取りこむ。癖は各人の型である。ルールという全体の癖をしっかり身につけることにより、個人の癖が取り込まれる。

この大会のテーマ『今、ここ』。今ここに居る。今が大事。今の為にしているのではなく、今から未来に向けて意味があるから「いのちの電話」の仕事をしている。なぜボランティアを始めたのか。『よりよい未来に向けて』です。このことを意識の下に持ってください。

例えば、電話のかけ手が「会ってよ。」と言う。そうして欲しいという欲求を話すことはよいこと、考えること、理解につながることで、それは未来につながることになる。電話のかけ手が少しでもいい方向に行くように受け手が志すこと、そして受け手（私）もいい方向に行けるといいなと思うこと、それが共に生きるということです。」

R. A

東日本広報  
担当者会議

## 「東日本広報担当者会議」に参加して

去る10月9日（金）～10月10日（土）、ナナカマドの紅葉も美しい札幌市教育文化会館を会場に26名の参加者で実施されました。折しも大型台風の影響で北海道は大変不安定な気象状況、加えて講師の体調不良で分科会の変更もありましたが、無事に第23回の広報担当者会議を開会することが出来ました。

北は札幌センターから南は浜松センターまでの広報担当者が1泊2日の日程で、講演 記事編集 2グループに分かれての話し合いと充実した内容でした。北海道新聞社に勤務された講師から「読み手に訴える広報の作り方」というテーマで講演があり、見出しの役割やレイアウト、写真の力等について具体的に説明していただきました。やはり長らく現場で培われた視点は「さすが！」と感じ入りました。

広報誌やお知らせの資料が溢れている昨今、先ず『手に取ってもらう』ことが各センターの共通した思いのようでした。限られた予算の中で、モノクロからカラー印刷へ ページ数 そして広報担当者の確保と悩みも山積しております。2グループに分かれての話し合いの中では各センターの現状や問題点、相談員確保に向けた取り組み等が忌憚なく話され参考になる事柄には互いに頷き合い、また同じ悩みを共有したり仲間意識も強くなったようです。最後に札幌いのちの電話 南榎子理事長から次回に向けた提案などの話があり閉会となりました。

希望者には札幌市内にある北海道センターの見学があり、交通の便も良く恵まれた環境にあるセンターを見学したことは私にとって良い体験となりました。

会議の運営に携われた方々の細やかなご準備やご配慮に感謝するとともに、この会議に参加させて頂いたことに改めて御礼を申し上げます。（広報委員 金田由利子）

## 資金ボランティアの皆様

ご支援ありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

2015年5月～2015年9月分の会費等のご協力をいただいたのは、下記の皆様です。心より感謝申し上げます。

### 個人維持会員

佐藤セイ子	西澤 謙一	大久保忠雄
高橋あき子	落合 京子	小座間信夫
渋谷 貞雄	鏡 初子	金田由利子
武田 静子	鈴木 功修	京野アイコ
石塚 照子	中部 道子	渡部 廣子
伊藤 吉明	原 哲二	小座間正子
土井 和博	神崎 一枝	寒河江浩二
細矢恵美子	末廣 晃二	黒澤 洋介
大宮八重子	伊豆倉公子	竹川 敏雄
柿崎 滋子	佐藤 泰司	国井 富彦
佐藤 豊彦	今野 雅行	小島 義右
佐藤 篤	小関 充	
高橋 省子	市村 克朗	

### 団体維持会員

高島電機(株)	山形共立(株)	(株)山形電気調整所
(医)社団佛仁会板垣医院	きらやかリース(株)	(株)ヤガイ
(株)マルナカ中村商店(増口)	きらやかカード(株)	ミクロン精密(株)
協同薬品工業(株)	新庄信用金庫	(株)でん六
(株)西村工場	(有)最新清掃興業	山形トヨタ自動車(株)
(株)ヤマザワ	たいようパン(株)	(株)佐藤工務
日本基督教団山形地区	(株)丸吉奥山組	トップ建材(株)
日本基督教団山形本町教会	蔵王米菓(株)	(株)銘菓の錦屋
日本基督教団山形六日町教会	(株)蔵王サブライズ	進和ラベル印刷(株)
山形三菱電機機器販売(株)	(株)東北シーアイシー研究所	山形販売(株)
山形酸素(株)(増口)	(株)丸太中村	(株)大坂屋
(株)菅原工務所	(株)山形一進社	山形トヨペット(株)
本行寺	(株)ムラヤマ	(株)ジョイン

### 賛助会員

鈴木 靖子	後藤美紀子
末廣 晃二	芳谷 浩紀
伊藤 和子	寒河江印刷(株)
(医)土田医院	匿名(3件)
羽山総合建設(株)	

### 寄附金

千歳グループ親交会	渋谷 光夫
大掛 梅子	大沼 俊彦
(株)山形新聞社	(株)セーブエナジー
小野 葉子	坂本 温子

### 常設募金箱

(株)ジョイ	坂本歯科医院
(株)大沼デパートお客様	(財)三友堂病院
山形LL事務局	酒田医療センター
(株)シベール	

※万が一お名前の誤り、記載もれがございましたら、事務局までご一報下さい。

★INFORMATION★

第13回山形いのちの電話チャリティーコンサート

いのちをうたう  
コンサート

**出演** 高橋まり子 (ソプラノ) 高橋 寛 (テノール)  
増川 大輔 (チェロ) 須藤恵美子 (ピアノ・編曲)

**日時** 12月29日(火) 18:30開演 (開場18:00)

**場所** 山形グランドホテル 2F「サンリバー」

**チケット** お一人さま 10,000円  
(軽食・お飲物付、税込)

※お問合せは  
023-645-4377 (事務局) まで

**主催** 山形いのちの電話  
理事長 古澤 茂堂  
後援会会長 本間 利雄  
評議員 三浦孝太郎



資金ボランティアのお願い

山形いのちの電話の運営費は、主として皆様の善意による寄付金で支えられています。あなたも後援会員になって、この活動を支えてくださいますか？

①維持会員 (年額：何口でも可)

	A会員	B会員	C会員
個人会員	1万円	5千円	3千円
団体会員	10万円	5万円	1万円

②賛助会員

金額は特に定めず、随時ご寄付いただける方です。

③年末特別賛助金

クリスマス・年末を迎え、今年もご協力の程、よろしくお願い致します。

寄付金は免税となります。詳しくは事務局 (023-645-4377) にお問い合わせください。

- ・送金先 郵便振替口座 02460-2-21250
- ・名義先 社会福祉法人 山形いのちの電話

毎月10日は自殺予防いのちの電話！

自殺予防いのちの電話 (フリーダイヤル)

**時期** 2015年12月～2016年3月

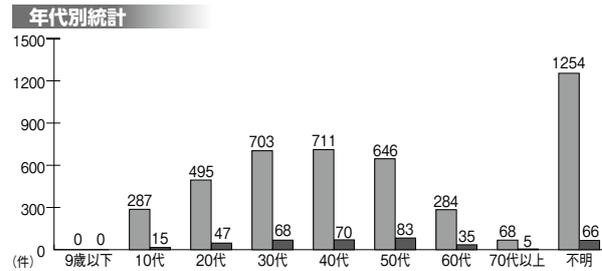
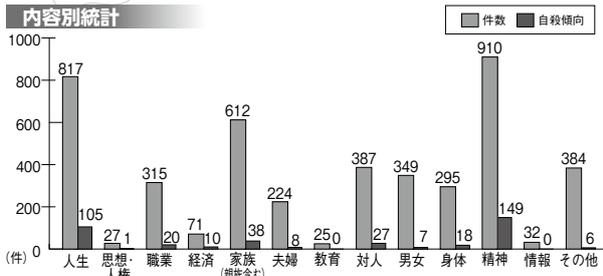
**時間** 午前8時～翌日午前8時まで

TEL 0120-738-556



2015年1～9月の受信統計

総件数 4,448件 うち自殺志向件数 389件



**事務局日誌**

6月1日	「広報やまがた」に活動紹介が掲載
3日	事務局会議
4日	日本のいのちの電話連盟・総会 (東京)
8日	運営会議
10日	自殺予防いのちの電話
13日	山形いのちの電話総会・記念講演
21日	新聞・県庁だより掲載
29日	山形県教育センター「教育相談課研修会」に講師派遣
7月1日	16期生・インターン実習開始
5・6・7日	全国事務局長会議
9日	事務局会議
10日	自殺予防いのちの電話、運営会議
11・12日	相談員会・宿泊研修 (天童)
27日	研修委員会
29日	企業向け研修会
31日	朝日新聞に活動紹介が掲載
8月6日	事務局会議
7日	運営会議
8日	地域公開講座 (最上地区)
10日	自殺予防いのちの電話
21日	広報委員会
31日	研修委員会
9月2日	18期生募集締め切り
3日	県自殺対策推進会議
4日	事務局会議
4日	運営会議
5・6日	3年目研修 (寒河江)
10日	自殺予防いのちの電話
10日	自死遺族支援合同研修会 (青森)
13日	18期生面接、認定会議
13日	自殺予防シンポジウム (青森)
14日	自死遺族支援合同研修会 (青森)
15日	村山地域自殺未遂者相談支援機関ネットワーク会議
28日	研修委員会
10月3日	18期生養成講座開講式
8日	事務局会議
9日	運営会議
9・10日	東日本広報担当者会議 (札幌)
10日	自殺予防いのちの電話
16～18日	全国研修会inかごしま

編集後記

自然災害のニュースが、毎日のように目に飛び込んできます。改めて人間の無力さに気づかされます。だからこそ知恵を出し、互いに言葉をかけ合い、人との繋がり・寄り添う心を大切にしていかなければ、これが世の中 (社会) で生きていく為の原点ではないのか。その為に未熟な私がいち相談員として、日々精進し成長していかなばと思っています。(ね)

社会福祉法人 山形いのちの電話

事務局 〒990-8691 山形中央郵便局私書箱第99号  
電話/023-645-4377(事務用) FAX/023-645-7795  
発行人/古澤 茂堂 編集/広報委員会

※この広報誌は、共同募金からの助成で作りました。